

中学校の部

特選 自由図書部門

「藤沢さんと山添君と私」



揖斐川町立谷汲中学校 三年

今村 美音

私は普通の人より繊細だと思う。相手のことを考え過ぎて疲れ、自分の意見を言いたいときは勝手に溢れてくる涙に遮られ、些細な言葉の一つでも傷付き、落ち込んでしまう。それであり、人より繊細な私を理解してくれる人はごく僅か。私はこの生まれつきの性格をどうにか克服し、少しでも身が楽になる生活ができないものか、といつも考えていた。

その時に読んで、「夜明けのすべて」という一冊の本。普段、恋愛やファンタジー系の小説しか読まない私は、二人の登場人物の何気ない日常を描く約二百六十ページの小説を、飽きることなく読み切ることが出来るのか不安だった。

この本では藤沢美紗、通称藤沢さんと、山添孝俊、通称山添君の二人を中心に話が進んでいく。この二人に関して物語を読む上で押さえておきたい点が二つ。一つ目、藤沢さんはPMS（月経前

症候群）に悩まされていること。二つ目、山添君はパニック障害を患っていること。同じ職場で働く二人、藤沢さんは最初、山添君のことが苦手だった。仕事をしていても態度が素っ気なかったからだ。その態度に腹が立った藤沢さんはPMSということもあり、山添君に怒りをぶつけてしまうこともあった。それでもお互いがお互いの態度の理由を知っていくことで苦手意識が薄まり、お互い自分の特性を理解していくようになった。この作文の最初でも話した通り、私は普通の人よりも繊細だ。この繊細さには藤沢さんや山添君みたいにPMSやパニック障害といった明確な病名は付いていない。この繊細さは私の性格の一部であり、病名が付いていない故、理解されにくいしどれほど辛くてもそれにあった特効薬はない。だが、私も藤沢さんには山添君、山添君には藤沢さん、といった家族でも友達でも恋人でもない、悩みを相談できる誰かがいたら、理解してくれる誰かがいたら、その誰かを頼って少しでも楽に生きていくことが出来るだろうか。

物語の中に藤沢さんが山添君の家へ押しかけて彼の髪を切るという場面がある。山添君はパニック障害で散髪店へ行けず、それを気にかけて藤沢さんが山添君の家で彼の髪を切るのだが、美容師経験が一ミリもない藤沢さんは山添君の髪を切るのに苦戦して、おしゃれとはいいたい髪型になってしまう。その髪型を見た山添君は、今まで不愛想だったのにも関わらず、

体を震わせるほど笑っていた。この場面は普通の人として捉える
とごく普通の場面だが、今まで素っ気なかった山添君と彼に苦手
意識を抱いていた藤沢さんの場面として捉えようと、少しの間でい
かに関係性が良いものに変わったかが伺える。このシーンをきつ
かけに二人の関係性と二人が抱く病気についての捉え方が変わ
り全体的にポジティブになっていく。その変化は一目瞭然だった。

最初はPMSよりパニック障害の方がしんどいと決めつけてい
た山添君も徐々に「そうではないのでは」と少しずつ藤沢さんや
PMSへの関心を深めていった。私は最初、山添君がパニック障害
だと知っていても、やる気のない人間だな、と思っていた。それ
が藤沢さんに心を開きだした途端、周りの全部が見えだしたかの
ように、藤沢さんを氣遣ったり、言動にも温かみが出たりした。
藤沢さんと山添君が働いている会社は規模も人数も少ないが、
人情にあふれた人たちがたくさんいる。それは藤沢さんにとって
も理解が得られ、過ごしやすい環境で、山添君にとっても働きや
すい職場だったに違いない。

そこで私は自分の繊細さを少しでも和らげるためには二つ
必要なものがあると考えた。それは自分に適した環境と自分
が心を許す誰かだ。特に学生の私に必要なのは自分が心を許す
誰かだ。今は学校か家かそのどちらかにいることがほとんどだ。
大人みたいに雰囲気や職を変えることはできない。環境を変え
ることが出来ず、その環境に生きづらさを感じてしまうのであ

れば、その環境の中で自分に適する人を見つければ少しでも心
の支えになるはずだ。残念ながら今の私には家族や友達や恋人
とは違う、同士とも呼べる特別な関係の人はいない。この物語
で藤沢さんとの出会いをきっかけに山添君が段々と心を開い
たように、人生において自分の価値観や今までの経験を揺るが
すような人がいたならば、私はその人に出会い、自分の繊細さ
を少しでも愛したいと思う。

今はまだこの繊細さが理解されず、自分一人で苦しむ夜の中
にすることが多い。それでも生きて、自分に合う何かを見つけ
ることでその夜の中から抜け出したい。山添君や藤沢さんがそ
うだったように、私も明るい夜明けが見たい。

瀬尾 まいこ 作

『夜明けのすべて』

水鈴社

【講評】

物語の登場人物の心情に自分を重ね、共通点を見つけることで、
今の自分と向き合い、見つめ直す姿が文章から感じられます。自分
の未来を切り拓くための方法を考え、実行していこうとする姿を
大切に行って欲しいです。